

所属	心理学研究科 臨床心理学専攻 修士課程	修了年度	平成 29 年度
氏名	菅野 明那	指導教員 (主査)	宇野 耕司

論文題目	0-3 歳の子どもをもつ母親によるサポート獲得方略と育児ストレスの関連 —父親の生活スタイルの視点からの検討—
------	--

本文概要

問題・目的 近年、増え続ける児童虐待を予防することが求められており、そのためには重要なサポート源である父親に対して母親が適切なサポート獲得方略を使用してサポートを得る必要があると考えられる。そこで本研究では、周・深田(2014)の夫婦間サポート獲得方策リストが 0-3 歳児をもつ日本人の母親にも適用可能か検討した上で、サポート受け取り量が増加し育児ストレスが低下するための、母親のサポート獲得方略と父親の生活スタイルという夫婦双方の要因を明らかにすることを目的とする。

研究方法 0-3 歳児の母親を対象に、無記名式質問紙調査で実施した。質問紙の構成は、①基本属性②夫の仕事・家庭・個人的活動に対するエネルギー投入割合(大野, 2012)。③夫婦ペアレンティング調整尺度(加藤・黒澤・神谷, 2014)④父親の育児サポートに関する母親の認知尺度(中嶋他, 2000)。⑤夫婦間サポート獲得方策リスト(周・深田, 2014)⑥母親の育児ストレス尺度短縮版(清水・関水, 2010)。

結果 ①因子分析の結果、サポート獲得方略は 26 項目で「報酬・他者利用方略」「脅し方略」「尊重・励まし方略」「情的訴え方略」の 4 因子構造となった。②分散分析の結果、経産婦よりも初産婦の方が「尊重・励まし方略」の使用度が高く、仕事型や余暇型よりも家庭型の方が「育児不安」が高かった。③出産経験ごとの相関分析の結果、有意な相関のうち初産婦と経産婦で「報酬・他者利用方略」と「夫の支援のなさ」、「脅し方略」と「心身的疲労」「育児不安」、「尊重・励まし方略」と「手段的サポート」「夫の支援のなさ」、「情緒的サポート」と「夫の支援のなさ」、「手段的サポート」と「心身的疲労」、「情動的サポート」と「心身的疲労」において、総じて初産婦においてのみ有意な相関がみられた。④多母集団同時分析の結果、仕事型の生活スタイルの父親では、「脅し方略」「報酬・他者利用方略」「尊重・励まし方略」「情的訴え方略」から「情緒的サポート」への有意なパス、「尊重・励まし方略」から「手段的サポート」「情動的サポート」、「報酬・他者利用方略」から「手段的サポート」、「情緒的サポート」「手段的サポート」から「夫の協力のなさ」への有意または有意傾向のパスが見られた。余暇型は、「報酬・他者利用方略」から「手段的サポート」、「尊重・励まし方略」から「情緒的サポート」、「手段的サポート」から「心身的疲労」「育児不安」「夫の協力のなさ」への有意なパスが見られた。家庭型は、「尊重・励まし方略」から「情緒的サポート」、「情緒的サポート」から「夫の協力のなさ」、「手段的サポート」から「育児不安」への有意または有意傾向のパスが見られた。

考察 父親の生活スタイルごとに有効なサポート獲得方略が異なることが示されたと同時に、父親の生活スタイルによらず「脅し方略」は有効ではなく、「尊重・励まし方略」が有効な手段であることが示された。また、初産の母親への支援の重要性が示された。

主要な文献 周 玉慧・深田 博己 (2014). 結婚の質に及ぼす夫婦間のサポートの授受とサポート獲得方略の授受の影響：二者関係における相互作用過程の観点から 心理学研究, 82, 231-239.